パネルディスカッション

報告 1：アフガニスタンから

（アジズ・アフマッド・アデル）

勝間　　それでは、これからは、現地からの報告ということで、海外ゲストの皆様からお話を頂きたいと思います。第一の報告者は、もうすでにご紹介いたしましたが、アフガニスタンから来ていただきましたアジズ・アフマッド・アデルさんです。よろしくお願い致します。

アジズ　　皆さんこんばんは、この貴重なお時間を頂きましてありがとうございます。障害者支援に関してアフガニスタンの状況をお話しさせていただくことを感謝しております。皆様とこの大学の皆様とお会いできること大変光栄です。

まず、4 つの基本的なことについて、アフガニスタンでの活動についてお話したいと思います。まず、このスライドにある通りにお話しをしていきたいと思います。

私の名前は、アジズ・アフマッド・アデルです。カブールの理学療法専門学校の理学療法士です。これは、アフガニスタンにおける主な理学療法専門学校で、私はカブールで働いており、またカブールに住んでおります。地図でご覧のとおりアフガニスタン、私の国の情報が出ております。アフガニスタンは、アジアの中央部に位置しております。正式名所は、アフガニスタンイスラム共和国です。人口は、大体 2200 万から 2500 万ということです。面積は日本の 1・5 倍です。首都は、カブールです。そして民族構成は、パシュトゥーン人、タジク人、ハザラ人、ウズベク人などです。そして国の宗教は、イスラム教が主です。また、主な国の言語は、ダリ語そしてパシュトゥーン語です。

こちらのスライド(p.37 上)は、私どもの文化をご紹介したいと思って入れました。アフガニスタンの人たちは、勇敢な人たちで、もし機会を与えられれば成功を収めることができます。このゲームは、ブズカシという名前のゲームです。これは、アフガニスタンの国民的なスポーツです。そしてこちらもアフガニスタンの別の側面です。

ご存じの通り、アフガニスタンでは、20 年以上に亘り内戦があり国が破壊されています。多くの人が家を追われて隣国イラン、パキスタンなどに避難しています。2001 年にタリバン政権が崩壊しましたので、人々が徐々に国の自分の自宅に帰還しつつあります。しかしその住宅は、この内戦で破壊されています。これ(p.37 下)がその破壊された家を表しております。

また、アフガニスタンは非常に歴史のある国です。多くの知識人や哲学者がアフガニスタンで誕生、そして輩出されました。非常に気候もよく、山も高く、また新鮮な水も泉から得られます。そしてアフガニスタンの人々は、お客様を大切にする、歓迎す

る気質があります。

このスライド(p.38 下)はカブールの一部、アフガニスタンの首都です。住宅が山の上に建てられているのがご覧いただけると思います。ですから市場に行ったり、家に戻ったりするために、障害を持つ人は毎日、この山を上り下りしなくてはいけないのがいかに大変かとお分かりいただけると思います。

また、このスライド(p.39 上)に写る車は日本の中古車です。アフガニスタンに日本の中古車が持ち込まれたのだと思います。女性はスカーフをかぶっています。そして子どもたちは、この車に乗って学校に行っているわけです。輸送システム、交通システムもかなり破壊され、いろいろな問題があり、人々はこういった車を使って移動しています。

また、アフガニスタンの観光のもう１つの側面です。観光客がここには非常に関心を持っております。バーミヤン市です。日本でも人気があるかと思います。大きな仏像のある場所です。これは、バンデ・アミルという湖です(p.39 下)。淡水が豊富です。そしてアフガニスタンに来る多くの観光客にとって、この場所だけは見逃せないという所です。

さて、障害者に関しては、アフガニスタンの人々は、伝統的に障害者を尊重しておりいろいろと助けてきました。例えばあまり仕事をさせない、あるいはあまり移動をさせないようにする。とにかく何処かに座って、そして気分よく過ごしてもらおうとしています。しかし障害者には、いろいろと問題があります。例えば仕事を見つけるのがとても大変、あるいは、ほとんど不可能という場合もあります。というのは、ほとんどの雇用主は、障害者は仕事ができない、適切に仕事ができない、きちんと仕事ができないと思っているからです。またもう１つ、結婚をするということも難しい点です。結婚がなかなか出来ず、常に孤独で貧困であるという場合が多いわけです。

私が基本的に行っている活動、アフガニスタンで行っている活動ですが、私のプロジェクトは、理学療法ですけれども、障害者の支援で非常に重要なポイントです。それから２つ目は、障害者を支援するにあたってその身体機能回復、モビリティ、移動を助けるということです。我々のプロジェクの中でこの移動ということは、非常に重要です。また社会参加も重要な点です。障害者が社会に参加できるように支援していきます。また自立をする、日常生活で自立ができるようにするということも支援しています。これらが私たちのプロジェクトで行っている活動です。

ご覧の通り、プロジェクトの１つの側面は、理学療法です(p.41 下)。理学療法の先生が生徒に対して教えています。治療のための超音波を、ポリオの後遺症でまひした、少女の足にどのように当てていくかを教えています。アフガニスタンでは、まだポリオの問題があり、ポリオの後遺症でまひ障害を持つ人がいます。またこれは、男性が

腰痛で苦しんでいます(p.42 上)。そして理学療法士がこの姿勢をどう正すか、そしてどのように運動したらよいか指導しております。これは、リハビリテーションの一環です。症状の悪化を予防するため、リハビリテーションを行っております。こちらの方は、トレーニングの一部です(p.42 下)。この人たちは、普通の人ではなくて、みな医師、医者です。このように、医師も訓練しています。障害についての意識を高めるための指導をしています。というのは、医師が最初に患者さんと接触する人たちだからです。直接患者さんとやり取りするので医師自身が障害者にどう対応するか、どう支援するか、そして適切な場所へとどう患者さんを紹介していくかということを指導していかねばなりません。

そして、課題もその中にはあります。主な課題としてあるのは、障害者の社会への統合です。先ほど申しましたように、最初のスライドで申しましたが、文化的に伝統的にアフガニスタンの人々は、障害者に外に出ていってほしいと思っていない、とにかく家の中にいてほしいと思っているわけです。それが１つ問題となっております。つまり社会に統合されていない、家で孤立しているわけです。それから２つ目は、教育です。こちらでもご覧になれると思います。もし学校に行く必要があるとすれば、まずそこまで移動しなくてはいけません。では、その移動の手段を誰が与えてくれるのか、誰が支援してくれるのかという問題があります。次の文でお分かりいただけると思いますが、理学療法というのは、あまり認知されておりません。ですから理学療法もこのリハビリテーションの一環なわけです。この運動の中で理学療法も提供しております。しかし社会であまり認知されておりません。これも１つ課題として直面しております。

では、それにどう対応していくかということですが、私どもの考えでは１つ重要な点というのが、認識・意識改革のプログラムです。それぞれ地元の社会、あるいは社会一般、そして人々の意識啓蒙活動です。障害者をどう支援しそして社会に統合していくのか、どうしたら自立を支援できるのか、そして移動することを支援できるかということです。こういったまず認知、意識を高めてもらう必要があります。それから２つ目は、理学療法です。障害者は、理学療法を通じ、社会に統合されていくための身体機能を回復する必要があります。特に、私がこのようなプロジェクト活動中に勇気づけられたことは、やはり喜ぶ顔を見ることです。たとえば、以前は希望を失くしていた地雷、ロケット弾などで身体機能を失った人の顔に、微笑みが戻ってくるということ、それが私にとってはとてもうれしいことです。

この後お話しいたしますのが、ジャミールさんのお話です。7 歳の少年でアフガニスタンの西部のヘラート州の出身の少年です。父親は、学校にこの子を連れて行こうとして誤って対人地雷の事故にあい右足を失いました。そして本当に希望を失ってしまいました。もうこれで人生は終わりだと思った、学校にはもう行けないと思ったのです。しかしリハビリテーションを行い、教育を行い、義足・松葉づえを手に入れることにより、学校に行くことが出来るようになりました。これは 15 年前のことです。そ

して今このジャミールさんは、理学療法を学ぶ機会を得て、理学療法士になりました。そして何百人という負傷や問題を抱えている人たちを助けています。これがリハビリテーションの１つの例です。

こちらでご覧いただけると思いますが(p.44 下)、障害を持った人たちが他の人たちと一緒にスポーツをしています。このように障害をもった人もスポーツを楽しんでいます。この人たちも、自分も何かができると実感し、この試合に参加しているわけです。つまり悲しみから脱却していくことができるわけです。

最後に私が皆さんにお話ししたいのが私の夢です。まずは、平和なアフガニスタン、そして平和な世界が実現することです。私たちみなが、平等そして基本的ニーズへのアクセスを持つべきです。つまり平等そして基本的な人間のニーズをすべての人に実現できるようにしなければいけないと思います。そして人生の選択、宗教を自由に選べるということを考えています。この夢がいつか実現すればと考えています。

皆さんご存じの通り、私たち皆人間として自分自身のことを考えています。自分あるいは家族あるいは国ということを、自分第一で考えがちですけれども、やはり私たち皆お互い助け合い、他の人の利益も考えていくべきだと思っています。それが１つのポイントです。それからもう１つは、私はアフガニスタンで働いている、皆さんは日本にいる、そしてラオスあるいはその他の国パキスタンなどにいる方もいらっしゃいますが、私たち皆この努力を結集して、世界中の障害者の方々の生活を変えていきましょう。ありがとうございました。

勝間

アジズ・アフマッド・アデルさん、どうもありがとうございました。アフガニスタンから非常に力強いメッセージを頂きました。

Association for Aid and Relief, Japan

アフガニスタンにおける障害者自立支援

Assistance to persons with disabilities in Afghanistan

2008年6月　June 2008

名前:アジズ・アフマッド・アデル　Name: Aziz Ahmad Adel

Association for Aid and Relief, Japan

発表の流れ

１）自己紹介 Self Introduction

２）アフガニスタンの紹介

About My Home Country

３）私の障害者自立支援活動　My Activities

４）今後の予定とメッセージ Plan and Messages

１）自己紹介

Self Introduction

＜報告の流れ＞

１）自己紹介　Self Introduction
２）出身国の紹介　About My Home Country
３）私の障害者自立支援活動　My Activities
４）今後の予定とメッセージ　Plan and Messages

難民を助ける会
Association for Aid and Relief, Japan

こんにちは！ Hello! Salam aleikum!

私の名前は、アジズ・アフマッド・アデルです。アフガニスタンのカブールに住んでいます。

My name is Aziz Ahmad Adel.
I live in Kabul, Afghanistan.

２）アフガニスタンの紹介

About My Home Country

＜報告の流れ＞

１）自己紹介　Self Introduction
２）出身国の紹介　About My Home Country
３）私の障害者自立支援活動　My Activities
４）今後の予定とメッセージ　Plan and Messages

難民を助ける会
Association for Aid and Relief, Japan

アフガニスタン基本情報

General Information about Afghanistan

正式名　アフガニスタン・イスラム共和国
面積　約65万2,225km^2　日本の約1.7倍
人口　2,209万人（2006年）
首都　カブール
民族構成　パシュトゥーン人、タジク人、ハザラ人、ウズベク人等
宗教　イスラム教が主。
言語　ダリ語、パシュトゥーン語

出展：外務省HP

難民を助ける会
Association for Aid and Relief, Japan

難民を助ける会
Association for Aid and Relief, Japan

アフガニスタン国情報(1)

Information about Afghanistan(1)

①アフガニスタンの良いところ

What can I be proud of my country?

アフガニスタンは、歴史のある国です。多くの知識人や哲学者がアフガニスタンから誕生しました。またすごしやすい気候で、アフガニスタンにはお客様を歓迎する気質があります。

Afghanistan is a historic country. Many intellectuals and philosophers were born and raised up in Afghanistan. We have good weather and very clean and fresh water from springs.
The people of Afghanistan are very hospitable to guests.

難民を助ける会
Association for Aid and Relief, Japan

難民を助ける会
Association for Aid and Relief, Japan

Association for Aid and Relief, Japan

アフガニスタン国情報(2)

Information about Afghanistan(2)

②障害者を取り巻く環境

What is the environment surrounding PWDs in Afghanistan?

家族や社会は伝統的に障害者を尊重しているが、就労の問題がある。人々が障害者には仕事ができないと考えているためである。そのため、障害者は結婚もできず、孤独で貧困にある場合が多い。

Afghan families and society traditionally respect PWDs. But PWDs have difficulties in getting jobs. Because people tend to think that PWDs are unable to do proper jobs. People also do not want to marry with them. Thus, many PWDs are lonely and poor.

Association for Aid and Relief, Japan

３）私の障害者自立支援活動

My Activities

＜報告の流れ＞

１）自己紹介　Self Introduction

２）出身国の紹介　About My Home Country

➡３）私の障害者自立支援活動　My Activities

４）今後の予定とメッセージ　Plan and Messages

Association for Aid and Relief, Japan

私の障害者自立支援活動(1)

My Activities (1)

①活動 Activities

首都カブールの理学療法専門学校のプロジェクト・マネージャーとして、障害者のリハビリに従事している

Serving for the rehabilitation of PWDs as the Project Manager at the Physical Therapy Institute in Kabul

②活動をはじめたきっかけ Reasons of Starting Activities

障害者の身体機能回復、社会参加、日常生活における自立を支援したいと思った。

To support PWDs to ensure the mobility, the participation in a society and the independence in their everyday life.

Association for Aid and Relief, Japan

難民を助ける会
Association for Aid and Relief, Japan

Association for Aid and Relief, Japan

私の障害者自立支援活動(2)

My Activities (2) - Challenges

③活動の課題 Main Difficulties

社会・教育分野における障害者の統合

Integration of PWDs in society and education

理学療法への認識の低さ

Unpopularity of physiotherapy

Association for Aid and Relief, Japan

私の障害者自立支援活動(3)

My Activities (3)- Responses to challenges

④どのように障害者を取り巻く環境を改善していく予定か How will we change the environment surrounding PWDs?

・障害者を取り巻く社会の意識改革

・理学療法は特に障害者の身体機能回復で貢献可能

Public awareness about persons with disabilities should be enhanced.

Physiotherapy can particularly help PWDs in their physical rehabilitation.

Association for Aid and Relief, Japan

私の障害者自立支援活動(3)

My Activities (3)- Encouragement

⑤活動中に勇気付けられたこと

What impressed or encouraged me most in my activities?

身体機能を取り戻した障害者が、社会や学校に参加し、喜ぶ顔を見ることが、励みになっている。

To see the happy faces of people who have improved their health conditions and participated in a society and schools encourages me.

Association for Aid and Relief, Japan

Association for Aid and Relief, Japan

４）今後の予定とメッセージ

Plan and Messages

＜報告の流れ＞

１）自己紹介　Self Introduction
２）出身国の紹介　About My Home Country
３）私の障害者自立支援活動　My Activities
→４）今後の予定とメッセージ　Plan and Messages

Association for Aid and Relief, Japan

今後の活動について(1)

①私の夢　My Dream

平等で、基本的ニーズや宗教や人生の選択の自由が保障されたアフガニスタンと世界を実現すること

To see a peaceful Afghanistan and the world where all people have equality and access to basic human needs and freedom for their choice of life and beliefs.

今後の活動について(2)

②会場の皆様へのメッセージ Messages

お互い助け合い、他者の事情も考えていきましょう。

Let us support one another and think about the benefits of others, too.

世界の障害者の生活を変えるために、我々の努力を結集しましょう。

Let us gather our efforts to bring changes to the lives of PWDs all over the world.

難民を助ける会
Association for Aid and Relief, Japan

ご静聴ありがとうございました。

Thank you very much for your sincere listening.